



HOPPY team TSUCHIYA
レースリポート
2026 AUTOBACS SUPER GT Round5
SUZUKA GT 300km RACE

日時	2026年8月22日予選、23日決勝	■車両名	HOPPY Schatz GR Supra GT
■場所	鈴鹿サーキット（三重県）	■カーNo.	25
■監督	土屋 武士	■ドライバー	松井 孝允／洞地 遼大
■チーム	HOPPY team TSUCHIYA	■リザルト	予選 Q1 A組14位/Q2進出ならず 決勝 16位

灼熱の鈴鹿、試されるのは総合力

前戦富士で掴んだ手応えを胸に、ステップアップの道を行く

第 4 戦富士から 3 週間というインターバルを経て迎えた第 5 戦。舞台は世界でも屈指のテクニカルコース、鈴鹿サーキットだ。コーナリング性能とマシンバランス、そしてドライバーの技量が問われる「総合力のサーキット」。前戦は決勝で力強く 8 ポジションアップを果たし、着実な進化を見せたホピ子にとって、その進歩をもう一段上げられるかどうかを試される一戦となった。



8 月 22 日（土）フリー走行、公式予選

残暑厳しい鈴鹿サーキットに強い日差しが降り注ぐ。フリー走行、公式予選ともに終始ドライコンディション。前戦富士の後に実施されたタイヤテストの結果を踏まえ、更なる改良を施して臨んだ今回のレース。その検証とも言える公式セッションに臨んだ。

▼フリー走行＜GT300 12 位 1 分 59 秒 049＞



いつも通り松井選手からコースイン。じっくりとタイヤを温めながらラップを重ね 4 周目に 1 分 59 秒 812 をマーク。ここで、洞地選手にドライバーチェンジ。名古屋出身であり、ホンダのレーシングスクールで腕を磨いた洞地選手にとって鈴鹿はいわば「ホーム」。その意気込みたるや想像に難くない。走行を再開すると着実にタイムを刻み、12 周目、1 分 59 秒 049 まで縮める。このタイムはトップ（18 号車メルセデス）から 0 秒 499 差、という手応えを感じさせる好タイム。ただ、トップから 1 秒差に 20 台が収まるという混戦。結果フリー走行は 12 位。マシンのポテンシャルの高さを感じさせる結果となり、予選への期待が高まった。

▼予選 Q1:洞地遼大 A 組 14 位 1 分 59 秒 155（Q2 進出ならず）

25 号車は A 組での出走。上位 9 台のみが Q2 に進出できる。フリー走行でのタイム差を考えると厳しい戦いに変わりはない。今回は初めて洞地選手が Q1 を担当。本人も気持ちの入ったアタックとなった。A 組のトップは D's station の 777 号車、タイムは 1 分 57 秒 324 と 57 秒台に入れた。アタックラップで各車序盤から上位勢がハイペース。多くのチームが 58 秒台に入れてくる。洞地選





手もアタックへ。刻んだタイムは1分59秒155、A組14位となりQ2進出ラインを超えられず。決勝は27番グリッドからのスタートが決まった。フリー走行でのポジションを踏まえると、武士監督以下首を傾げる結果となったが、コンディションの変化などで本来のパフォーマンスを発揮できなかったようだ。武士監督は「決勝でどこまで挽回できるか。やれることを全てやる」と照準を切り替え、鈴鹿の夜を過ごした。

8月23日（日）決勝レース

▼決勝<GT300 16位>

決勝当日も朝から陽射しが照りつける。恒例のピットワークにはたくさんのファンが訪れ、ホピ子の姿をカメラに収めたり、ドライバーにサインを求める行列ができるなどの光景があった。

予選に続き、本戦で初のスタートを務めることになった洞地選手にグリッドで声をかけると「周りが実績のあるドライバーばかりなのであまり抜けないかもしれませんが頑張ります」とさほど気負いすぎではない様子。ただ静かに闘志は燃えていたに違いない。

午後1時37分、決勝レースがスタート。27番グリッドからの巻き返しを目指し、洞地選手が果敢に前を追う。オープニングラップで一つ順位を上げると2周目に24位にアップ。そして4周目には前を走るランキング上位のapr31号車をパシして23位へポジションアップ。14周目にコース上でのトラブルによりフルコースイエロー（FCY）。この辺りから、各チーム最初のピットストップが始まる。ホピ子はステイアウトし、一時12位まで順位を上げる。21周目にピットイン。今回給油の予定時間は20秒ほど。松井、洞地両ドライバーはこの時間でドライバーチェンジができるよう、事前に練習を重ねてきた。そのドライバー交代も見事に完了。タイヤは



左側前後2本のみの交換という戦略だ。チームスタッフも確実な作業で松井選手とホピ子をコースへ送り出した。レースへは20位で復帰。全車最初のステントを終えた時点で見ると、ピット戦略で三つほどポジションを上げたことになる。

松井選手は安定したペースを刻みながら前を追いついていく。ついに37周目には16位までアップ。ポイント獲得まであと1台だ。その後一旦18位に下げるが、再び追いついて41周目には16位まで戻す。さあ、入賞へ！と思った矢先の43周目、再びコース上のアクシデントでセーフティカーが導入される。隊列が整理され、残る数週の「超スプリント」か？とピット内もざわめく。

しかし、結局セーフティカー先導のままチェッカーを迎える波乱の展開となった。25号車は48周を走りきり16位でフィニッシュ。予選27番手から11ポジションもアップさせる追い上げを見せた。

「やれることは全てやって追いつける」武士監督の言葉通り、チームは遂行した。富士に続き決勝でのポジションアップを実現したことは、マシンとチームの総合力が着実に高まっている証と言えるだろう。それだけに「予選でもう少し前につけていれば」という悔しさも残る一戦となった。

次戦に向けて、武士監督以下チームは翌日のタイヤテストで、今回得た手応えと課題をさらに検証。次戦菅生では更なるポジションアップを目指して準備を進めていく。



▽土屋武士監督、松井孝允選手、洞地遼大選手の決勝レース後のコメントはこちらからご覧ください。

土屋監督 <https://youtube.com/shorts/iFWg9dDQBHo>

松井選手 <https://youtube.com/shorts/4mIILNj0S9U>

洞地選手 <https://youtube.com/shorts/7rXCaPwGZb8>

◎つちやエンジニアリングの YouTube チャンネル「つちやエンジニアリング_sub_ch」

広報・豊原が運営する YouTube チャンネル INFINITY MOMENT でも随時 HOPPY team TSUCHIYA の戦いを追っていく予定です。

こちらも是非、チャンネル登録のほど、よろしくお願いいたします。

URL: https://www.youtube.com/@tsuchiya_25



つちやエンジニアリング_sub_ch

レース搬入日の直前情報、レースの見どころ情報、
予選後、決勝後の監督・ドライバーのコメントなどはこちらです。

URL: <https://www.youtube.com/@infinitymoment-tv>



INFINITY MOMENT

特集動画や武士監督のロングインタビューなどはこちらです。

【問い合わせ先】

つちやエンジニアリング合同会社

〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原2507

TEL : 0466-49-5010 FAX : 0466-49-5011

担当： 土屋・豊原